

サッカー中継で用いられる外来語

渡 邊 ゆかり

1 は じ め に

スポーツの分野では様々な外来語が多用されている。また、同じ形式の外来語であっても、スポーツの種類により異なる意味で使われることも少なくない。例えば、「ボレー」という語は、テニスでは、相手が打ってきた球を地面に落とさず、返球することを意味するが、サッカーでは、ボレーキック、ボレーシュートの略語として、浮き球を直接蹴ることを意味する。さらに、「応援者」という同一の漢語に言い換え可能な「ファン」「サポーター」のように、使用するスポーツの種類が異なるものも存在する。このように、スポーツの分野では、様々な外来語が氾濫しているのみならず、使用法も多種多様である。

本稿では、このようなスポーツ分野における外来語の使用状況を示す基礎資料としてサッカー中継で用いられる外来語の調査結果を提示すると共にそこで用いられた外来語について「延べ語数と異なり語数」「出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴」「品詞別に見た語の意味的特徴」「外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成」の四つの観点から分析を行う。なお、本稿は、静岡県立大学国際関係学部の水野かほるとの共同研究において、稿者が担当した調査の結果をまとめたものである。稿末には調査結果の基礎データを参考資料として添付した。

2 調 査 方 法

以下に、「(A) 調査対象」と「(B) 外来語の採取方法」を記す。

(A) 調査対象

調査対象は、NHK で放映されていた2006年 FIFA ワールドカップドイツ大会の以下の表1の試合中継のうち、前半戦の試合開始のホイッスル直後から後半戦の試合終了のホイッスル直前までの生中継の部分に相当する。途中のニュースの部分、延長戦の生中継の部分は含めない。

表 1 調査対象となった2006年 FIFA ワールドカップドイツ大会の試合

2006年 6月25日	アルゼンチン×メキシコ（グループリーグ）
2006年 6月26日	エクアドル×イングランド（グループリーグ）
2006年 6月27日	スイス×ウクライナ（グループリーグ）
2006年 6月30日	ドイツ×アルゼンチン（決勝トーナメント）
2006年 7月 2日	ブラジル×フランス（決勝トーナメント）

(B) 外来語の採取方法

DVD-R に録画した表 1 の試合から外来語ならびに外来語を含む混種語を抽出した。なお、本調査においては、外国語から借用した日本語のうち、漢語を除くものを外来語としたほか、和製英語などもこれに含めた。また、外来語が語の構成要素として含まれている混種語についても外来語として調査対象に含めた。

3 調 査 結 果

3.1 延べ語数と異なり語数

ここでは、本調査で採取した外来語（外来語を構成要素として含む混種語も含む）の延べ語数と異なり語数について見ていく。

表 1 に挙げた全試合から採取した語の延べ語数、異なり語数は右の表 2 の通りであった。

また、各試合の延べ語数、異なり語数は、以下の表 3 の通りであった。

表 2 全試合の延べ語数と異なり語数

①延べ語数	3,918語
②異なり語数	477語
③延べ語数÷異なり語数	8

(③は小数点第一位以下四捨五入)

表 3 各試合の延べ語数と異なり語数

	6/25	6/26	6/27	6/30	7/ 2	1 試合平均
①延べ語数	703語	813語	880語	790語	732語	784語
②異なり語数	188語	173語	196語	197語	187語	188語
③延べ語数÷異なり語数	4	5	4	4	4	4

(③は小数点第一位以下四捨五入)

表3より、1試合あたりの延べ語数÷異なり語数の値は、4もしくは5であり、試合間で大きな差が見られないことがわかる。

次に、出現試合数の多い語と少ない語とで、延べ語数と異なり語数にどのような相違が見られるのかについて調べた。結果は以下の表4の通りである。

表4 出現試合数ごとに見る延べ語数と異なり語数

	①延べ語数	②異なり語数	③延べ語数÷異なり語数
出現試合数5回の語	2,469語	54語	46
出現試合数4回の語	539語	31語	17
出現試合数3回の語	260語	38語	7
出現試合数2回の語	305語	79語	4
出現試合数1回の語	345語	274語	1

(③は小数点第一位以下四捨五入)

表4より、延べ語数については、出現試合数5回の語が2,469語と最も多く、出現試合数3回の語が260語と最も少なかった。次に、異なり語数については、出現試合数1回の語が274語と最も多く、出現試合数4回の語が31語と最も少なかった。最後に、延べ語数÷異なり語数の値については、出現試合数5回の語が46と最も大きく、出現試合数1回の語が1と最も小さかった。

出現試合数5回の語の延べ語数が他の語より格段に多い理由については、この語の延べ語数÷異なり語数の値が同様に他の語よりも際立って大きいことから、出現頻度が際立って高い語が比較的多く含まれていることが原因と考えられる。

また、延べ語数÷異なり語数については出現試合数が多い語ほどその値が大きいことから、出現試合数が多い語ほど出現頻度が高い、換言すれば出現頻度が高い語ほど出現試合数が多い傾向にあることがわかる。

以上、3.1では本調査で採取した外来語の延べ語数と異なり語数について分析してきた。次の3.2では、出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴について分析する。

3.2 出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴

まず、出現頻度の高い語10位は表5の通りであった。

表5に見るように、1位は「ボール」である。これは、サッカーが球技の

表5 出現頻度の高い語10位

順位	具 体 例	出現数	出現の割合
1	ボール	233	5.9%
2	ディフェンス	180	4.6%
3	ファール	137	3.5%
4	シュート	132	3.4%
5	サイド	88	2.2%
6	フリーキック	87	2.2%
7	セットプレー	83	2.1%
8	チャンス	82	2.1%
9	コーナーキック	80	2.0%
10	〈国名〉ボール	77	2.0%
10	両チーム	77	2.0%

(「出現の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

一つであることを象徴している。

また、2位の「ディフェンス」は、「攻撃を防御する行為」ならびに「攻撃を防御する選手」がサッカーという競技において重要な役割を果たしていることを示唆している。事実、サッカーにおいては、ディフェンスの選手は、ただ単に相手の攻撃を防御するだけではなく、相手のボールを奪うインターセプトという行為により、試合の流れを切り替える重要な役目を担っている。また、サッカーの重要なルールの一つであるオフサイドの定義とも関わっている。このオフサイドという用語は、攻撃側の選手がボールより前にいてディフェンスの最後尾の選手が二人以上いない位置や、このような位置にいる攻撃側の選手がプレーに関与してはいけないというルールや、このルールを破るという反則に対して用いられる。

さらに、3位以下の語については、3位の「ファール」、4位の「シュート」、6位の「フリーキック」、7位の「セットプレー」、8位の「チャンス」、9位の「コーナーキック」の6語が得点チャンスと結びつく行為を表していた。このように、サッカー中継においては、視聴者の期待感あるいは緊迫感が高まる局面を表す語も比較的多用されている。

またさらに、5位には、位置を表す「サイド」が存在した。これは、試合

表6 出現頻度の高い形態素10位

順位	具 体 例	出現数	出現の割合
1	サイド	378	7.5%
2	ボール	357	7.0%
3	ディフェンス	212	4.2%
4	キック	202	4.0%
5	プレー	200	3.9%
6	シュート	183	3.6%
7	バック	168	3.3%
8	ゴール	164	3.2%
9	ファール	145	2.9%
10	ライン	125	2.5%

(「出現の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

表7 「 」を構成要素とする語で異なり語数の多いもの10位¹⁾

順位	語 の 種 類	異なり語数
1	「サイド」を構成要素として含む語	19語
2	「ゴール」を構成要素として含む語	17語
2	「ボール」を構成要素として含む語	17語
4	「プレー」を構成要素として含む語	16語
5	「シュート」を構成要素として含む語	12語
6	「パス」を構成要素として含む語	11語
7	「キック」を構成要素として含む語	10語
8	「ディフェンス」を構成要素として含む語	9語
9	「バック」を構成要素として含む語	8語
9	「〈英語読みの数〉」を構成要素として含む語	8語
9	「メンバー」を構成要素として含む語	8語
9	「ライン」を構成要素として含む語	8語
9	「リーグ」を構成要素として含む語	8語

1) 9位が複数存在したので10位は存在しない。

中のフィールド内においてボールがセンターよりもサイドを通過することの方が多くことや、センターからの攻撃よりもサイドからの攻撃の方が多くことなどが関係していると考えられる。

次に、異なり形態素数290のうち出現頻度の高い形態素10位は、表6の通りであった²⁾。なお、‘ing’や‘er’といった名詞化機能を持つ英語の接辞に由来する「-ング」や「-ー」を伴った「語基+ング」「語基+-」は、語基と「-ング」、「-ー」を分けず、この形で一つの形態素として扱った。また、複数や所有格を表す英語の接辞‘s’に由来する「-ズ」を伴った「語基+ズ」も、この形で形態素として扱い、「-ズ」の有無は形態素の相違に関与しないものとした。

表6のうち、7位の「バック」と10位の「ライン」を除く、「サイド」「ボール」「ディフェンス」「キック」「プレー」「シュート」「ゴール」「フェール」の8形態素は、表5に挙げた出現頻度の高い語を構成する形態素としても用いられている。

7位の「バック」と10位の「ライン」は、いずれも表7に挙げる「 」の形態素を構成要素とする語で異なり語数の多いものの9位に入っていることから、これらを構成要素とする語の異なり語数の多さが出現頻度の高さに影響していると思われる。

以上、出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴について見てきた。次の3.3では、品詞別に見た語の意味的特徴について分析する。

3.3 品詞別に見た語の意味的特徴

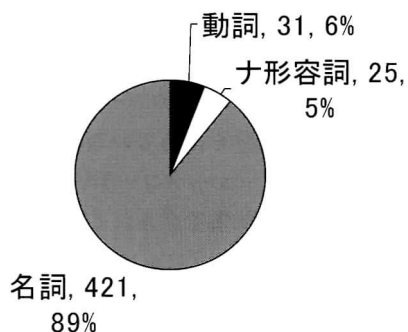
まず、品詞別に見た異なり語数とその割合は、グラフ1の通りであった。グラフ1が示すように名詞の出現比率が89%と最も高く、動詞、ナ形容詞(副詞的用法を含む)の出現比率は、各々6%、5%で、名詞と比べるとかなり低い。

次に、以下、動詞、ナ形容詞、名詞の順に、それぞれの語の意味的特徴について分析していく。

まず、動詞については、共起する必須成分の格と意味の相違から、表8に示す(A)-(K)の11種類に分類することができる。

この11種類のうち、(B)(D)-(K)の9種類は「選手」を必須成分とし

2) 延べ形態素数は5,067であった。



グラフ 1 品詞別に見た異なり語数とその割合

表 8 必須成分の格と意味の相違に基づく動詞の種類とその具体例

動 詞 の 種 類	具 体 例	異なり語数
(A) [チームが] 自動詞	リードする	1語
(B) [選手が] 自動詞	エキサイトする, オーバーラップする, ショートコーナーする, ステートする, スリップする, ターンする, チャレンジする, ハードワークする, プレーする	9語
(C) [ボールが] 自動詞	バウンドする	1語
(D) [選手が] [選手に] 自動詞	アプローチする	1語
(E) [選手が] [ボールに] 自動詞	タッチする	1語
(F) [ボールが] [選手に] 自動詞	ヒットする	1語
(G) [選手が] [選手を] 他動詞	カバーする, サポートする, フォローする, マークする	4語
(H) [選手が] [ボールを] 他動詞	カットする, キープする, クリアする, クリックする, シュートする, ピックアップする, ワンツーする, スルーする	8語
(I) [選手が] [チームを] 他動詞	コントロールする	1語
(J) [選手が] [攻撃を] 他動詞	ガードする, ディフェンスする	2語
(K) [選手が] [審判に] [ファールを] 他動詞	アピールする, リクエストする	2語
合 計		31語

ており、このうち (B) (D) (E) (G) - (K) の 8 種類は「選手」を主語としている。また (C) (E) (F) (H) の 4 種類は「ボール」を必須成分としている。このように、表 8 からは、選手やボールの動きを捉えた動詞がサッカー中継で使用される動詞の大部分を占めていることがわかる。

また、「オーバーラップする」「ショートコーナーする」「ワンツーする」といったサッカーの専門用語も比較的多く含まれている。

さらに、(G) の「カバーする」と「フォローする」、(J) の「ガードする」と「ディフェンスする」、(K) の「アピールする」と「リクエストする」のように、同じ知的意味で使用されている対語も存在した。

以上、動詞の意味的特徴について見てきた。次に、ナ形容詞の意味的特徴について分析する。ナ形容詞は、意味的に以下の表 9 に示す (A) - (C) の 3 種類に大きく分類することができる。

表 9 ナ形容詞の意味的特徴

形容詞の種類	具 体 例	異なり語数
(A) チームや選手の動作の様子	アグレッシブ, ウィーク, エネルギッシュ, オーバー, クリーン, コンパクト, シンプル, ストロング, スペクタブル, スロー, ダイレクト, タフ, フラット, フレッシュ, スピーディー, ワイド	16語
(B) 選手の役割	カウンター的, ジョーカー的, ターゲット役的, ボランチ的, マンツーマンの, 〈英語読みの数〉ボランチ的	6語
(C) チームや選手の動作の一観点	コンディショニング的, システム的, スタート的	3語
合 計		25語

表 9 より、ナ形容詞には「アグレッシブ」「ウィーク」「エネルギッシュ」のように、チームや選手の動作の様子を表すものが多いことがわかる。

また、「カウンターの」「ボランチ的」といった選手の役割を表すものや、「コンディショニング的」「スタート的」のようにチームや選手の動作の一観点を表すものも用いられている。

さらに、「的」という漢語系形態素を伴うものと伴わないものがあり、名詞的性格が強い外来語には「的」が伴う傾向にあった。

以上、ナ形容詞の意味的特徴について見てきた。次に、名詞の意味的特徴について分析する。

名詞は、意味的に以下の表10に示す(A)－(S)の19種類に分類することができる。なお、表中の囲みは、多義的に使用されている語であることを示す。

表10 名詞の意味的特徴

名 詞 の 種 類	具 体 例	異なり語数
(A) 時期や時間 や気候	^{ア行} アディショナルタイム, ^{カ行} 今シーズン, コンディション , ^{タ行} タイム, ^{ラ行} ロス, ロスタイム	6語
(B) スポーツ	^{カ行} 現代サッカー, ^{サ行} サッカー, ^{ハ行} ボクシング	3語
(C) 試合や試合 方式	[〓] (国名)リーグ, (国名)ワールドカップ, (地名)オリン ピック, (日本語読みの数)次リーグ, (年号)FIFA ワールド カップ(国名)大会, ^{カ行} グループリーグ, ゲーム, 決勝トー ナメント, 決勝トーナメント(日本語読みの数)回戦, コン フィギュレーションズカップ, ^{サ行} 世界ユース, ^{タ行} チャンピ オンズリーグ, トーナメント, ^{ナ行} ノックアウト方式, ^{ハ行} プ レミア, プレミアリーグ, ^{ラ行} リーグ, ^{ワ行} ワールドカップ, ワールドカップ(国名)大会, ワールドユース	20語
(D) 試合会場や その位置	[〓] (地名)オリンピックスタジアム, (地名)スタジアム, (地 名)ワールドカップスタジアム, ^{ア行} アウェー, ^{サ行} スタジア ム, セントラルスタジアム, ^{ワ行} ワールドカップスタジアム	7語
(E) 試合の局面 や様子	[〓] (国名)ベース, (国名)ボール, ^{カ行} キーポイント, キック オフ, ケース, ゲーム展開, ゲーム運び, ゲームプラン通り, ^{サ行} シーン, ^{タ行} タイムアップ, 得点シーン, ^{ナ行} 何シーン, ^{ハ行} ハーフタイム, プレーオン, ビーケー戦, ペナルティ キック戦, プレー再開, ^{ラ行} ロスタイム	18語
(F) チーム や チームと関 わる集団	[〓] (日本語読みの数)チーム, ^{ア行} 相手チーム, ^{カ行} クラブ, ク ラブチーム, グループ(アルファベット), ^{サ行} サッカー王 国, ^{タ行} チーム, ^{ヤ行} ユース連盟, ^{ラ行} 両チーム	9語
(G) チームの順 位	^{カ行} グループ(アルファベット) (日本語読みの数)位, ^{ナ行} ナン バー(日本語読みの数), ^{ハ行} ベスト(英語読みの数)	3語
(H) チームの構 成員(選手, 監督, スタッ プ) やその 役割	[〓] (英語読みの数)トップ , (英語読みの数)バック , (国名) ディフェンス, ^{ア行} アウトサイド , アンダー(日本語読みの 数), ^{カ行} キーパー, キッカー, キャプテン, グループ, 好 調ツートップ, ゴールキーパー, コンダクター, コンビ, ^{サ行} サイドアタッカー, サイドバック , サポーター選手, サポート , スタッフ, ストライカー, スロアー, センターバック , 先発メンバー, ^{タ行} ターゲット, タレン ト, チームメイト, ティーンエイジャー, ディフェンス , ディフェンス陣, ディフェンダー, トライアングル , トップ , トップ下 , ドリブラー, ^{ハ行} 左サイド ,	57語

名詞の種類	具 体 例	異なり語数
	<p>左サイドバック, フィールドプレーヤー, フォワード, プレーメーカー, プレーヤー, ベテラン, ベテラン同士, ボール保持者, ポジション, ボランチ, マ行マーカー役, 右サイド, 右サイドバック, ミッドフィールダー, メンバー, ヤ行優勝メンバー, ユニフォーム, ラ行両エース, 両サイド, 両サイドバック, レギュラー, レギュラーメンバー, レフティー</p>	
(I) 観客	<p>〱〈国名〉ファン, サ行サポーター</p>	2語
(J) 審判	<p>ア行アシスタントレフリー, ハ行レフリー</p>	2語
(K) チームの構成員(選手, 監督, スタッフ)の所持物	<p>ア行イメージ, エンジン, オプション, カ行カード, キープ力, キャプテンマーク, ゲームプラン, コールドスプレー, コンビネーション, サ行スコア, スタミナ, スタミナ面, スタンス, ストッキング, ストロングポイント, スパイク, スピード, タ行タイトル, ダイナミックさ, タイミング, タイプ, ダメージ, テクニック, テクニック力, ナ行ニュアンス, ハ行バススペース, バランス, バランス力, パンチ力, ヒール, プラス, プラン, プレー機会, ペース, ポイント, ボール, マ行メリット, メンタリテイ, ヤ行ユニフォーム, ラ行リスク, リズム, リズム感, ルーツ</p>	43語
(L) 審判の所持物	<p>ア行イエロー, イエローカード, カ行カード, ハ行フラッグ, ホイッスル, ラ行レッド, レッドカード</p>	7語
(M) 観客や実況者の所持物	<p>サ行サンバ, タ行タオル, データ</p>	3語
(N) チームの構成員(選手, 監督, スタッフ)の動きや状態	<p> 〱〈英語読みの数〉タッチ, 〈英語読みの数〉トップ, 〈英語読みの数〉バック, 〈英語読みの数〉ボランチ, 〈日本語読みの数〉点リード, ア行アウト, アクシデント, アクセント, アシスト, アタック, アピール, アプローチ, インターセプト, ウォーミングアップ, ウォームアップ, オウンゴール, オーバーラップ, オープニングゴール, オフサイド, オフサイドトラップ, オリジナル, カ行カウンター, カット, カバー, カバーリング, キープ, キープ率, キック, キャッチ, クリア, クロス, クロスボール, ケア, 決勝ゴール, 決勝トーナメント進出, 攻撃モード, 好セーブ, 好ディフェンス, コーナー, コーナーキック, ゴール, ゴールイン, ゴールキック, コミュニケーション, コンタクト, コンディショニング, コントロール, コントロールミス, コンビネーションプレー, サ行サイドチェンジ, サイドプレー, サインプレー, サポート, システム, システム変更, ジャブ, ジャンプ, シュート, シュートチャンス, 省エネ, ショートコーナー, ショートパス, スタート, スタイル, スタメン出場, ステップワーク, スピードアップ, スピード系, スプリント, スライディング, スライディングタックル, ストップ, スルーパス, スローイン, スローダウン, 接触プレー, セットプレー, 先制ゴール, タ行タックル, </p>	190語

名詞の種類	具 体 例	異なり語数
	タッチ, タッチ数, タッチング, ダブルボランチ, チームスタイル, チャンス, チャンピオンリーグ優勝, <u>ディフェンス</u> , ディフェンス登録, ディフェンスバトル, ディフェンダー登録, 同点ゴール, トップスピード, <u>トライアングル</u> , トラップ, ドリブル, ドリブルシュート, ドリブル突破, トレーニング, ^ナ 行ナイスセーブ, ノーフール, ノーマーク, ^ハ 行パス, パスベース, パスまわし, パスミス, パスワーク, バックパス, ハットトリック, パフォーマンス, パワープレーぎみ, パンチ, ハンド, ピーケー, ビッグチャンス, ピンチ, ピンポイント, ファーストタッチ, ファール, ファインセーブ, ファインプレー, フィールドアップ, フィニッシュ, フェイント, フォーメーション, フォワード登録, フリー, フリーキック, フリック, フル出場, プレー, プレースタイル, プレス, プレスボール, プレッシュャー, プレッシング, プレッシングベース, ブロック, ベスト〈英語読みの数〉入り, ヘディング, ヘディングシュート, ペナルティキック, ベンチスタート, ポーカー, ボールキープ, ボールキープ率, ボールキック, ボール支配率, ボールタッチ, ボールつなぎ, ボールヘディング, ボールまわし, ボジショニング, ボジション取り, ポストプレー, ボレー, ボレーシュート, ^マ 行マーク, マッサージ, マンツウ, マンツウマン, マンマーク, マンマークぎみ, ミス, ミスキック, ミスキックぎみ, ミスパス, ミドルシュート, メンバー入り, メンバーがえ, メンバー交替, メンバーチェンジ, ^ヤ 行横パス, ^ラ 行ラインディフェンス, ラストパス, リーク優勝, リード, リスクマネジメント, リスタート, リターン, リベンジ, ルーズ, レシーブ, 連続ゴール, ロングシュート, ロングスロー, ^ワ 行ワンクッション, ワンチャンス, ワンツウ, ワントップぎみ, ワンプレー	
(O) ボールの動きや状態	^カ 行カーブ, グラウンダー, ^サ 行シュート回転, シュートぎみ, セカンドボール, ^タ 行チャンスボール, ^ハ 行ハイボール, ヒット, ^ラ 行ループ, ループぎみ, ロングボール	11語
(P) 審判の動き	^ア 行アドバンテージ, ^タ 行遅延コール, ^ハ 行 <u>ホイッスル</u> , ^ラ 行レフリング	4語
(Q) 観客の動き	^サ 行ジェスチャー, スタンディングオベーション, ^ハ 行ブーイング	3語
(R) ピッチ内の場所, 位置, 線, 方向, 軌道	^ア 行 <u>アウトサイド</u> , <u>エリア</u> , エンド, <u>オフサイド</u> , オフサイドポジション, ^カ 行逆サイド, クロスパー, コース, ゴール, ゴールエリア, ゴール中央, ゴールネット, ゴール方向, ゴールポスト, ゴール前, ゴールライン, ^サ 行最終ライン, サイド, サイドネット, <u>サイドバック</u> , シュートコース, シュートレンジ, スペース, <u>センターバック</u> , ゾーン, ^タ 行ディフェンスライン,	53語

名詞の種類	具 体 例	異なり語数
	<u>トップ</u> , <u>トップ下</u> , ^{ナ行} ニアサイド, ^{ハ行} ハーフウェイライン, バイタルエリア, バックライン, <u>左サイド</u> , <u>左サイドバック</u> , ピッチ, ファー, ファーサイド, ファーポスト, フィールド, <u>フォワード</u> , ペナルティアーク, ペナルティエリア, ペナルティスポット, <u>ポイント</u> , <u>ポジション</u> , ポスト, ホットライン, ^{マ行} <u>両サイド</u> , <u>両サイドバック</u> , ミドルレンジ, ^{ラ行} <u>ライン</u> , <u>両サイドバック</u>	
(S)ピッチ外の場所, 位置	^{カ行} (国名)ベンチ, ^{タ行} テクニカルエリア, ^{ハ行} バックスタンド側, ベンチ, ^{マ行} メインスタンド側	5語

上記より, 「(N) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) の動きや状態」の異なり語数が190語と際立って多いことがわかる。また, 「(H) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) やその役割」「(R) ピッチ内の場所, 位置, 線, 方向, 軌道」「(K) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) の所持物」の異なり語数も, 順に57語, 53語, 43語と比較的多い。さらに, 動詞と同様, サッカーの専門用語が数多く含まれている。

次に, 表10において囲みのあった語, すなわち多義的に使用されている語の意味的特徴について分析する。

まず, どのような点で多義的なのかという観点からこれらの語を分類すると「(A)と(E)の解釈があるもの」「(A)と(N)の解釈があるもの」「(H)と(K)の解釈があるもの」「(H)と(N)の解釈があるもの」「(H)と(R)の解釈があるもの」「(K)と(L)の解釈があるもの」「(K)と(R)の解釈があるもの」「(L)と(P)の解釈があるもの」「(N)と(R)の解釈があるもの」「(N)の中にあって二つの解釈があるもの」「(R)の中にあって二つの解釈があるもの」の11に分類することができる。各々に該当する語は, 表11の通りである。

表11からは, 「(H) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) やその役割」と「(R) ピッチ内の場所, 位置, 線, 方向, 軌道」の解釈がある語類の異なり語数が一番多いことがわかる。これは, サッカーでは, 野球などと同様, 選手や選手の役割を表すのに「トップ」「バック」「サイド」といった位置を表す形態素が多く使用される傾向にあることに起因する。また, 二番目に多い「(H) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) やその役割」と「(N) チームの構成員 (選手, 監督, スタッフ) の動きや状態」の解釈があるもの

表11 多義的に使用されている名詞

解釈の種類	具 体 例	異なり語数
(A)と(E)	ロスタイム	1語
(A)と(N)	コンディション	1語
(H)と(K)	ユニフォーム	1語
(H)と(N)	〈英語読みの数〉トップ, 〈英語読みの数〉バック, サポート, ディフェンス, トライアングル	5語
(H)と(R)	アウトサイド, サイドバック, センターバック, トップ, トップ下, 左サイド, 左サイドバック, フォワード, ポジション, 右サイド, 右サイドバック, 両サイド, 両サイドバック	13語
(K)と(L)	カード	1語
(K)と(R)	ポイント	1語
(L)と(P)	ホイッスル	1語
(N)と(R)	オフサイド	1語
(N)	アウト, キープ	2語
(R)	エリア, ライン	2語

は、さらに「選手」と「選手の動き」の解釈があるものと、「選手」と「選手の状態」の解釈があるものと二つに下位分類できる。「ディフェンス」「サポート」が前者に、「〈英語読みの数〉トップ」「〈英語読みの数〉バック」「トライアングル」が後者に相当する。なお、後者のタイプの「選手の状態」は、特に試合体制を表していた。

次に、表11に挙げた語の意味的な結びつきについて述べると、《メタファー的な結びつき》と《メトニミー的な結びつき》と《シネクドキー的な結びつき》の3種類が存在した。次の(1)－(6)は、メタファー的な結びつきの例に、(7)－(12)は、メトニミー的な結びつきの例に、(13)は、シネクドキー的な結びつきの例に相当する。

《メタファー的な結びつき》

- (1) a. 早くも交替のカードを一枚切りました。(6/27前半戦)〔下線部は「切り札」の意〕

- b. 一つ間違えればマニャンにカードが出てもおかしくないシーンでしたね。(6/27後半戦)〔下線部は「警告カード」の意〕
- (2) a. 自分たちのストロングなポイントを前面的に出してる気がしますね。(6/25前半戦)〔下線部は「特性」の意〕
- b. シュナイダーがボールのポイントから少し離れました。(6/30の前半戦)〔下線部は「位置」の意〕
- (3) a. 30歳を過ぎてなおも好調をキープ。(7/2の前半戦)〔下線部は「維持」の意〕
- b. まだフランスキープ。(7/2の前半戦)〔下線部は「ボール保持」の意〕
- (4) a. コンディションもあがってきてるってことですね。(6/26の後半戦)〔下線部は「選手の状態」の意〕
- b. 試合前のコンディションは気温が26度というワールドカップスタジアム。(7/2の前半戦)〔下線部は「会場の状態」の意〕
- (5) a. ただ今リケルメ、テデスのラインでいい形が作れましたね。(6/30の前半戦)〔下線部は「パスライン」の意〕
- b. さかににイングランドはラインの裏をねらってきますね。(6/26の前半戦)〔下線部は「ディフェンスライン」の意〕
- c. ラインを割ったという判定か。(6/30の前半戦)〔下線部は「タッチライン」の意〕
- (6) a. 人につかないでそのエリアを守っているということですね。(6/26の前半戦)〔下線部は「ディフェンスゾーン」の意〕
- b. 奪ってから相手のエリアがゴールエリアが近くなるわけですけども(6/27の前半戦)〔下線部は「ゴールエリア」の意〕

《メトニミー的な結びつき》

- (7) a. 今のディフェンスはファールです(6/26の前半戦)〔下線部は「ディフェンスという動作」の意〕
- b. 4人のディフェンス。(6/26の前半戦)〔下線部は「ディフェンスの役割を持った選手」の意〕
- (8) a. 緑のユニフォームを着て(6/25の前半戦)〔下線部は「ユニフォームという服」の意〕

- b. 4人の黄色いユニフォームがいました。(6/27の後半戦)〔下線部は「ユニフォームを着た選手」の意〕
- (9) a. 左のアウトで強烈なシュート回転のたまも持っています。(7/2の前半戦)〔下線部は「アウトサイドキック」の意〕
- b. フランスはリベリーがアウトです。(7/2の後半戦)〔下線部は「ピッチ内の選手が選手交代で退場すること」の意〕
- (10) a. フォワードのフライがサポートに行きました。(6/27の前半戦)〔下線部は「ボールを持っている味方を援護すること」の意〕
- b. ルーニーのサポートが近くにしっかり来てないと(6/26の前半戦)〔下線部は「ボールを持っている味方を援護する選手」の意〕
- (11) a. ロスタイムの目安は3分という場内アナウンス。(7/2の後半戦)〔下線部は「選手交替や選手の負傷などの理由で試合が中断した時間」の意〕
- b. ロスタイムに入ります。(7/2の前半戦)〔下線部は「45分の試合時間に追加された、試合が中断した時間分の延長時間」の意〕
- (12) a. 今ホイッスルを吹いて前半が終わりました。(6/27の前半戦)〔下線部は「審判の笛」の意〕
- b. ビエラが倒れたところではホイッスルなし。(7/2の前半戦)〔下線部は「審判が笛を吹く行為」の意〕

《シネクドキー的結びつき》

- (13) a. 自分がいるエリアとパスで狙っているエリアが全く違うロナウジーニョ。(7/2の前半戦)〔下線部は「場所」の意〕
- b. 本稿の (6a)
- c. 本稿の (6b)

また、表11の語の中には、どの意味で使用されているかが前後の表現から明らかなものと、そうでないものが存在した。次の(14)は前者の表現例に相当し、(15)は後者の表現例に相当する。(14)の下線部は「で」という助詞の働きにより「位置」を表していることが明確であるが、(15)の下線部は「位置」を表しているともとれるし「役割」を表しているともとれる。

(14) 右サイドバックで待っていたのはヘラクレス。(6/26の後半戦)

(15) 右サイドバックのヘラクレス。(6/26の後半戦)

以上、多義的に使用されている語の意味的特徴について見てきた。

次に、言及対象が同じ対語、すなわち知的意味が同じ対語の形態的特徴について分析する。

次の表12は、知的意味が同じ対語を形態的特徴ごとに分類したものである。

表12 知的意味が同じ対語の形態的特徴

省略が関与する対語 17組
「イエロー」と「イエローカード」, 「エリア」と「ペナルティエリア」, 「クロス」と「クロスボール」, 「コーナー」と「コーナーキック」, 「ゴール」と「ゴールイン」, 「スライディング」と「スライディングタックル」, 「ピーケー」と「ペナルティキック」, 「ピーケー戦」と「ペナルティキック戦」, 「ファー」と「ファーサイド」, 「プレス」と「プレスボール」, 「プレミア」と「プレミアリーグ」, 「ポスト」と「ゴールポスト」, 「マンツーマン」と「マンツーマン」, 「ライン」と「ディフェンスライン」, 「ライン」と「パスライン」, 「レッド」と「レッドカード」, 「ロス」と「ロスタイム」
英語の接辞が関与する対語 6組
「ウォームアップ」と「ウォーミングアップ」, 「カバー」と「カバリング」, 「プレッシャー」と「プレッシング」, 「タッチ」と「タッチング」, 「ディフェンス」と「ディフェンダー」, 「ディフェンス登録」と「ディフェンダー登録」
語種の相違が関与する対語 6組
「好セーブ」と「ナイスセーブ」, 「バックライン」と「最終ライン」, 「ボールキープ率」と「ボール支配率」と「ボール保持率」, 「ポジショニング」と「ポジション取り」, 「メンバーチェンジ」と「メンバーがえ」, 「パスワーク」と「パスまわし」
外来語の種類が異なる対語 9組
「アディショナルタイム」と「ロスタイム」, 「アピール」と「リクエスト」, 「エリア」と「ゾーン」, 「ガード」と「ディフェンス」, 「ダブルボランチ」と「ツーボランチ」, 「トップ」と「フォワード」, 「ペナルティスポット」と「ペナルティアーク」, 「マンツーマン」と「マンマーク」, 「ナイスセーブ」と「ファインセーブ」
上記の要因が複合している対語 1組
「サポート」と「サポーター選手」

表12が示すように、省略が関与する対語が一番多い。これらのうち「ライン」は、「ディフェンスライン」「パスライン」の2語と対応している。先の多義的に解釈される語のところでも、(5)のように「ライン」に「ディフェンスライン」「パスライン」「タッチライン」の三つの解釈が存在することを

見たが、視覚的な情報がなければいずれの意味で用いられているかは判別し難い。実況では、試合の流れや選手の動きの速度に合わせた短縮表現が多用される傾向にあるが、視覚障害を持った視聴者やサッカーに関する知識の浅い視聴者を配慮するのであれば、場面に依存しすぎる略語の使用はできるだけ控えることが好ましいと言えよう。

また表12に見るように、英語の接辞が関与する対語、語種の相違が関与する対語、外来語の種類が異なる対語も少なくない。この種の対語の多くは、場面の相違に基づき使い分けられているというよりは、むしろ実況者や解説者により使用する語が異なっていた。言語使用面における実況者、解説者の個性は、個々の番組のオリジナリティを形成する重要な要素の一つと言えよう。しかしながら、視聴者にとっての情報のわかりやすさを重視するのであれば、情報の伝達者である実況者、解説者間で、ある程度の用語の統一を図ることが求められる。以上、知的意味が同じ対語の形態的特徴について見てきた。

次に、類義語について分析する。

以下に挙げる《味方を助ける行為》《相手の攻撃を阻止する行為》は、その具体的な内容の相違により、使用する語が異なっている。

《味方を助ける行為》

カバー（カバリング）：味方のディフェンスを援護すること。

サポート：ボールを持っている味方を援護すること。

アシスト：味方のゴールキックの援助をすること。

《相手の攻撃を阻止する行為》

ディフェンス：相手の攻撃を封じること。

ブロック：相手のパスを封じること。

好セーブ：ゴールキーパーがシュートをうまく封じること。

好ディフェンス：相手の攻撃をうまく封じること。

これらの語は他のスポーツ分野でも使用されているが、サッカーの分野では、その分野特有の使い方がなされており、専門知識がなければ、細かな意味の区別を行うことは難しい。

また、《味方を助ける行為》を表す語として挙げた「サポート」は、次の

(16) のように、サッカー以外の分野（スポーツ以外も含む）では、本調査で採取された「ケア」とほぼ同じ知的意味で使用されることがある。

- (16) a. あの店は消費者に対する購入後のサポートがしっかりしている。
b. あの店は消費者に対する購入後のケアがしっかりしている。

なお、本調査で採取された「ケア」は、「相手の特定の動きに特に注意を払って対応すること」を表していた。

以上、3.3 では、品詞的に見た語の意味的特徴について分析してきた。次の3.4 では、外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成について分析する。

3.4 外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成

本調査で採取した外来語477種のうち、外来語を構成要素として含む混種語名詞は、87種存在した。このうち、外来語を前項要素として含むものは55種、後項要素として含むものは32種存在した。

次の表13は、外来語を前項要素として含む混種語名詞の例とその出現数を示している。

表13 外来語を前項要素として含む混種語名詞

順位	具 体 例	出現数 (割合)			
1	ゴール前	55(38.5%)	10	ゴール方向	2(1.4%)
2	キープ率	7(4.9%)	10	スピード系	2(1.4%)
3	グループ〈アルファベット〉〈日本語読みの数〉位	4(2.8%)	10	パスまわし	2(1.4%)
3	ゲーム展開	4(2.8%)	10	ピーケー戦	2(1.4%)
3	決勝トーナメント進出	4(2.8%)	10	メンバー交替	2(1.4%)
3	トップ下	4(2.8%)	10	ワールドカップ〈国名〉大会	2(1.4%)
3	ボールキープ率	4(2.8%)	17	ゲーム通り	1(0.7%)
3	ボールまわし	4(2.8%)	17	ゲーム運び	1(0.7%)
9	ワントップぎみ	3(2.1%)	17	ゴール中央	1(0.7%)
10	決勝トーナメント〈日本語読みの数〉回戦	2(1.4%)	17	サッカー王国	1(0.7%)
			17	サポーター選手	1(0.7%)
			17	システム変更	1(0.7%)

17	シュート回転	1(0.7%)
17	シュートぎみ	1(0.7%)
17	スタミナ面	1(0.7%)
17	スタメン出場	1(0.7%)
17	タッチ数	1(0.7%)
17	チャンピオンリーグ優勝	1(0.7%)
17	ディフェンス陣	1(0.7%)
17	ディフェンス登録	1(0.7%)
17	ディフェンダー登録	1(0.7%)
17	テクニク力	1(0.7%)
17	ドリブル突破	1(0.7%)
17	ノックアウト方式	1(0.7%)
17	バックスタンド側	1(0.7%)
17	バック面	1(0.7%)
17	バランス力	1(0.7%)
17	パンチ力	1(0.7%)
17	フォワード登録	1(0.7%)
17	フル出場	1(0.7%)

17	プレー再開	1(0.7%)
17	ベスト〈英語読みの数〉入り	1(0.7%)
17	ベテラン同士	1(0.7%)
17	ペナルティキック戦	1(0.7%)
17	ボール支配率	1(0.7%)
17	ボールつなぎ	1(0.7%)
17	ボール保持者	1(0.7%)
17	ポジション取り	1(0.7%)
17	マンマークぎみ	1(0.7%)
17	ミスキックぎみ	1(0.7%)
17	メインスタンド側	1(0.7%)
17	メンバー入り	1(0.7%)
17	メンバー替え	1(0.7%)
17	ユース連盟	1(0.7%)
17	リーグ優勝	1(0.7%)
17	リズム感	1(0.7%)
合 計		143(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

また、次の表14は、外来語を前項要素として含む混種語名詞の前項要素の具体例とその出現数を示している。

表14 外来語を前項要素として含む混種語名詞の前項要素

順位	具 体 例	出現数 (割合)
1	ゴール	58(40.6%)
2	キープ	7(4.9%)
3	ゲーム	6(4.2%)
3	決勝トーナメント	6(4.2%)
5	ボール	5(3.5%)
6	グループ〈アルファベット〉	4(2.8%)

6	トップ	4(2.8%)
6	ボールキープ	4(2.8%)
6	メンバー	4(2.8%)
10	ワントップ	3(2.1%)
11	シュート	2(1.4%)
11	スピード	2(1.4%)
11	ディフェンス	2(1.4%)
11	パス	2(1.4%)

11	ピーケー	2(1.4%)
11	ワールドカップ	2(1.4%)
17	サッカー	1(0.7%)
17	サポーター	1(0.7%)
17	システム	1(0.7%)
17	スタミナ	1(0.7%)
17	スタメン	1(0.7%)
17	タッチ	1(0.7%)
17	チャンピオンリーグ	1(0.7%)
17	ディフェンダー	1(0.7%)
17	テクニク	1(0.7%)
17	ドリブル	1(0.7%)
17	ノックアウト	1(0.7%)
17	バック	1(0.7%)
17	バックスタンド	1(0.7%)
17	バランス	1(0.7%)
17	パンチ	1(0.7%)

17	フォワード	1(0.7%)
17	フル	1(0.7%)
17	プレー	1(0.7%)
17	ベスト〈英語読みの数〉	1(0.7%)
17	ベテラン	1(0.7%)
17	ペナルティキック	1(0.7%)
17	ボール支配	1(0.7%)
17	ボール保持	1(0.7%)
17	ポジション	1(0.7%)
17	マンマーク	1(0.7%)
17	ミスキック	1(0.7%)
17	メインスタンド	1(0.7%)
17	ユース	1(0.7%)
17	リーグ	1(0.7%)
17	リズム	1(0.7%)
合 計		143(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

表14に挙げた前項要素は、8位の「フル」を除き、いずれも独立性が高く、語基的な役割を担っている。一方、次の表15に挙げる外来語を前項要素として含む混種語名詞の後項要素には、「優勝」「再開」といった独立性の高い語基的なものと、「者」「陣」といった独立性が低く従属性の高い接辞的なものが出現頻度の如何に関わらず偏りなく存在した。

表15 外来語を前項要素として含む混種語名詞の後項要素

順位	具 体 例	出 現 数 (割 合)
1	前	55(38.5%)
2	率	12(8.4%)
3	ぎみ	6(4.2%)
3	まわし	6(4.2%)
5	〈日本語読みの数〉位	4(2.8%)
5	下	4(2.8%)

5	進出	4(2.8%)
5	展開	4(2.8%)
9	戦	3(2.1%)
9	力	3(2.1%)
9	登録	3(2.1%)
11	〈国名〉大会	2(1.4%)
11	〈日本語読みの数〉回戦	2(1.4%)
11	側	2(1.4%)

11	系	2(1.4%)
11	交替	2(1.4%)
11	出場	2(1.4%)
11	方向	2(1.4%)
11	面	2(1.4%)
11	優勝	2(1.4%)
20	入り	1(0.7%)
20	王国	1(0.7%)
20	回転	1(0.7%)
20	替え	1(0.7%)
20	感	1(0.7%)
20	再開	1(0.7%)
20	者	1(0.7%)
20	陣	1(0.7%)

20	進出	1(0.7%)
20	数	1(0.7%)
20	選手	1(0.7%)
20	中央	1(0.7%)
20	つなぎ	1(0.7%)
20	同士	1(0.7%)
20	通り	1(0.7%)
20	突破	1(0.7%)
20	取り	1(0.7%)
20	運び	1(0.7%)
20	変更	1(0.7%)
20	方式	1(0.7%)
20	連盟	1(0.7%)
合 計		143(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

次に、外来語を後項要素として含む混種語名詞について見ていく。

以下の表16は、外来語を後項要素として含む混種語名詞の具体例とその出現数を示している。

表16 外来語を後項要素として含む混種語名詞

順位	具 体 例	出 現 数 (割 合)
1	両チーム	77(18.6%)
2	右サイド	60(14.5%)
3	最終ライン	36(8.7%)
3	左サイド	36(8.7%)
3	右サイドバック	36(8.7%)
6	決勝トーナメント	34(8.2%)
7	左サイドバック	33(8.0%)
8	逆サイド	20(4.8%)
9	〈日本語読みの数〉点 リード	19(4.6%)

10	1次リーグ	18(4.4%)
11	同点ゴール	8(1.9%)
12	両サイド	5(1.2%)
13	横パス	4(1.0%)
14	今シーズン	3(0.7%)
14	接触プレー	3(0.7%)
16	省エネ	2(0.5%)
16	世界ユース	2(0.5%)
16	先制ゴール	2(0.5%)
16	先発メンバー	2(0.5%)
20	相手チーム	1(0.2%)

20	決勝ゴール	1(0.2%)
20	現代サッカー	1(0.2%)
20	攻撃モード	1(0.2%)
20	守備的ミッドフィルダー	1(0.2%)
20	遅延コール	1(0.2%)
20	得点シーン	1(0.2%)
20	何シーン	1(0.2%)

20	優勝メンバー	1(0.2%)
20	好ディフェンス	1(0.2%)
20	両エース	1(0.2%)
20	両サイドバック	1(0.2%)
20	連続ゴール	1(0.2%)
合 計		413(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

また、以下の表17は、外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素の具体例とその出現数を示している。

表17 外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素

順位	具 体 例	出 現 数 (割 合)
1	右	96(23.2%)
2	両	84(20.3%)
3	左	69(16.7%)
4	最終	36(8.7%)
5	決勝	35(8.5%)
6	逆	20(4.8%)
7	〈日本語読みの数〉点	19(4.6%)
8	一次	18(4.4%)
9	同点	8(1.9%)
10	横	4(1.0%)
11	今	3(0.7%)
11	接触	3(0.7%)
13	省	2(0.5%)

13	世界	2(0.5%)
13	先制	2(0.5%)
13	先発	2(0.5%)
17	相手	1(0.2%)
17	現代	1(0.2%)
17	攻撃	1(0.2%)
17	好	1(0.2%)
17	守備的	1(0.2%)
17	遅延	1(0.2%)
17	得点	1(0.2%)
17	何	1(0.2%)
17	優勝	1(0.2%)
17	連続	1(0.2%)
合 計		413(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

表17より、前項要素として用いられている和語、漢語には、「相手」「攻撃」のように語基的に使用されているものも存在するが、出現頻度の高いものには、接辞的なものが多いという特徴が見られた。具体的に示すと、出現頻度の最上位1位から最下位17位までのうち1位の「右」から4位の「最終」まではいずれも接辞的に使用されている。また、これらはいずれも位置や方向

表18 外来語を後項要素として含む混種語名詞の後項要素

順位	具 体 例	出現数 (割 合)
1	サイド	121(29.3%)
2	チーム	78(18.9%)
3	サイドバック	70(16.9%)
4	ライン	36(8.7%)
5	トーナメント	34(8.2%)
6	リード	19(4.6%)
7	リーグ	18(4.4%)
8	ゴール	12(2.9%)
9	パス	4(1.0%)
10	シーズン	3(0.7%)
10	ブレー	3(0.7%)

10	メンバー	3(0.7%)
13	エネ	2(0.5%)
13	シーン	2(0.5%)
13	ユース	2(0.5%)
16	エース	1(0.2%)
16	コール	1(0.2%)
16	サッカー	1(0.2%)
16	ディフェンス	1(0.2%)
16	モード	1(0.2%)
16	ミッドフィルダー	1(0.2%)
合 計		413(100%)

(「出現数の割合」は小数点第二位以下四捨五入)

を示すという共通の特徴を有している。4位の「最終」は、通常は時間的な位置を表すのに使用されるがサッカー中継では、「最終ライン」という語の構成要素として「最後方」という意味で使用されている。さらに位置を表す接辞は、これら以外にも第6位の「逆」と第10位の「横」が存在する。

一方、外来語を後項要素として含む混種語名詞の後項要素は、表18が示すように、出現頻度の如何に関わらず語基的に使用されている。

以上、外来語を後項要素として含む混種語名詞について見てきた。

次の4では、本調査結果のまとめと今後の課題を提示する。

4 まとめと今後の課題

以上、本稿では、2006年 FIFA ワールドカップサッカー中継から採取した外来語について、「延べ語数と異なり語数」「出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴」「品詞別に見た語の意味的特徴」「外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成」という四つの観点から分析を行ってきた。

その結果、主に次の①－⑧のことが明らかとなった。

- ①出現試合数が多い語ほど出現頻度が高い、換言すれば出現頻度が高い語ほど、出現試合数が多い傾向にある。

- ②サッカーが球技の一つであることを象徴する「ボール」やサッカーの試合において重要な意味を担う「ディフェンス」や視聴者の期待感あるいは緊迫感が高まる局面と関係する「ファール」「シュート」といった語が多用されている。
- ③出現頻度の高い語に使用されている形態素や使用されている語の種類が多い形態素は、出現頻度が高い。
- ④動詞については、選手やボールの動きを捉えた動詞がサッカー中継で使用する動詞の大部分を占めており、専門的な意味が付与されているものが多い。
- ⑤ナ形容詞については、チームや選手の動作の様子を表すものが、種類が多い。
- ⑥名詞については、「チームの構成員（選手、監督、スタッフ）の動きや状態」を表すものが最も種類が多く、「チームの構成員（選手、監督、スタッフ）やその役割」「ピッチ内の場所、位置、線、方向、軌道」「チームの構成員（選手、監督、スタッフ）の所持物」を表すものも比較の種類が多い。また、多義的に使用されているものもいくつか存在し、その中では、「チームの構成員（選手、監督、スタッフ）やその役割」の解釈と「ピッチ内の場所、位置、線、方向、軌道」の解釈を持つものが最も種類が多い。さらに、知的意味が同じ対語については、省略が関与する対語が最も種類が多い。その他の対語については、場面の相違に基づき使い分けられているというよりは、むしろ実況者や解説者により使用する語が異なっている。
- ⑦外来語を前項要素として含む混種語名詞の場合、前項要素として用いられる外来語は、語基的に使用される傾向にあり、後項要素として用いられる和語・漢語は、語基的にも接辞的にも使用される。
- ⑧外来語を後項要素として含む混種語名詞の場合、前項要素として用いられる和語・漢語は、位置・方向を表し、接辞的な役割を果たすものの使用頻度が高く、後項要素として用いられる外来語は、前項要素として用いられる外来語と同様、語基的に使用される傾向にある。

サッカー中継では、「プレッシャー」「クリアする」など、サッカー以外の領域でも使用されるが、サッカー独自の意味で使用されている語が少くない。こういった用語の意味の理解度がサッカー観戦に及ぼす影響性について

は、今後の研究課題とする。また、サッカー中継における外来語の使用と他のスポーツ中継における外来語使用の類似点と相違点についても今後の研究課題とする。

参 考 文 献

- 石野博史 (1982) 「スポーツの外来語」『言語生活』370
 石綿敏雄 (1960) 「スポーツ用語と外来語」『言語生活』109
 石綿敏雄 (2001) 『外来語の総合的研究』東京堂出版
 大島中正 (2004) 「語釈用語から何がわかるか—西洋外来語『スポーツ』を例として—」
 同志社大学国文学会編『同志社国文学』61
 勝矢寿延監修 (2005) 『基礎からのサッカー』ナツメ社
 陣内正敬 (2007) 『外来語の社会言語学—日本語のグローバルな考え方—』世界思想社
 三村高之 (2007) 『最新サッカールールブック』学習研究社
 山田雄一郎 (2005) 『外来語の社会学—隠語化するコミュニケーション—』春風社
 米川明彦 (1986) 「近代における外来語とスポーツ—その定着過程—」宮地裕編『論集
 日本語研究 2 歴史編』明治書院
 劉美貞 (2002) 「韓国と北朝鮮の言語 (2)—スポーツ用語—」立命館アジア太平洋大学
 言語教育センター編『ポリグロシア』5

参考資料 (サッカー中継で用いられる外来語の基礎データ³⁾)

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
〈英語読みの数〉トップぎみ	0	3	0	0	0	3	1
〈英語読みの数〉ボランチ的(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
〈国名〉ファン	0	0	0	0	1	1	1
〈国名〉ベース	0	1	0	0	0	1	1
〈国名〉ベンチ	1	0	0	0	1	2	2
〈国名〉ボール	6	8	13	43	7	77	5
〈国名〉リーグ	0	0	0	1	0	1	1
〈国名〉ワールドカップ	2	0	0	0	0	2	1
〈国名〉ディフェンス	0	0	0	1	0	1	1
〈地名〉ワールドカップスタジアム	0	0	0	0	2	2	1
〈地名〉オリンピック	0	0	0	4	0	4	1
〈地名〉オリンピックスタジアム	0	0	0	3	0	3	1
〈地名〉スタジアム	0	1	0	0	0	1	1
〈年号〉FIFA ワールドカップ〈国名〉	0	0	0	0	1	1	1

3) ①-⑤の日付は試合の種類を、①列-⑤列の数字は各語の延べ語数を表している。

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
〈英語読みの数〉タッチ	9	1	4	4	0	18	4
〈英語読みの数〉トップ	14	20	9	1	6	50	5
〈英語読みの数〉バック	7	1	5	0	2	15	4
〈英語読みの数〉ボランチ	0	2	0	0	0	2	1
〈日本語読みの数〉次リーグ	8	1	5	0	4	18	4
〈日本語読みの数〉チーム	0	0	1	0	1	2	2
〈日本語読みの数〉点リード	0	0	0	2	0	2	1
相手チーム	1	0	0	0	0	1	1
アウェイ	0	0	0	0	1	1	1
アウト	0	0	0	0	4	4	1
アウトサイド	6	0	0	0	0	6	1
アクシデント	2	0	2	4	0	8	3
アクセント	0	0	0	1	0	1	1
アグレッシブ(な/に)	1	0	0	0	0	1	1
アシスタントレフリー	0	0	1	0	0	1	1
アシスト	0	0	0	1	0	1	1
アタック	1	0	0	0	0	1	1
アディショナルタイム	0	0	0	0	1	1	1
アドバンテージ	0	0	2	0	1	3	2
アピール	0	3	1	0	3	7	3
アピールする	0	0	1	0	0	1	1
アプローチ	0	0	1	2	0	3	2
アプローチする	1	0	0	0	0	1	1
アンダー〈日本語読みの数〉	0	0	1	0	0	1	1
イエロー	0	0	0	0	1	1	1
イエローカード	4	12	3	11	8	38	5
イメージ	0	0	0	2	0	2	1
インターセプト	2	0	1	0	0	3	2
ウィーク(な/に)	0	0	1	0	0	1	1
ウォーミングアップ	0	0	0	2	0	2	1
ウォームアップ	1	0	0	0	0	1	1
エキサイトする	0	0	0	1	0	1	1
エネルギーシユ(な/に)	1	0	0	0	0	1	1
エリア	0	4	2	0	2	8	3
エンジン	0	0	0	0	1	1	1
エンド	0	0	0	0	2	2	1

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
オウンゴール	1	2	0	0	2	5	3
オーバー(な/に)	0	0	0	1	0	1	1
オーバーラップ	2	2	4	1	1	10	5
オーバーラップする	2	1	0	1	0	4	3
オープニングゴール	0	0	0	1	0	1	1
オフサイド	7	11	2	4	11	35	5
オフサイドトラップ	3	0	0	0	0	3	1
オフサイドポジション	0	2	0	0	0	2	1
オプション	0	0	1	0	0	1	1
オリジナル	0	0	1	0	0	1	1
カード	0	0	4	1	0	5	2
ガードする	0	0	0	1	0	1	1
カーブ	0	0	1	1	0	2	2
カウンター	8	7	3	7	0	25	4
カウンターの(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
カット	1	0	0	0	0	1	1
カットする	0	1	1	0	0	2	2
カバー	1	1	1	0	0	3	3
カバーする	1	2	0	0	0	3	2
カバーリング	1	0	0	0	0	1	1
キーパー	1	7	2	5	6	21	5
キープ	2	4	7	3	9	25	5
キープする	0	6	10	3	3	22	4
キープ率	1	0	1	0	4	6	3
キープ力	0	0	1	0	0	1	1
キーポイント	0	0	1	0	0	1	1
キッカー	0	0	1	0	1	2	2
キック	1	1	1	1	3	7	5
キックオフ	2	1	2	2	0	7	4
逆サイド	0	6	5	2	7	20	4
キャッチ	0	0	0	0	1	1	1
キャプテン	1	1	3	3	3	11	5
キャプテンマーク	0	0	0	0	1	1	1
グラウンダー	1	0	1	0	1	3	3
クラブ	0	1	0	0	0	1	1
クラブチーム	0	0	1	0	0	1	1

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
クリア	0	2	1	1	2	6	4
クリアする	0	0	3	1	2	6	3
クリーン(な/に)	0	0	1	0	0	1	1
クリックする	1	0	0	0	0	1	1
グループ	0	0	0	1	0	1	1
グループ〈アルファベット〉	0	2	3	0	0	5	2
グループ〈アルファベット〉〈日本語 読みの数〉位	2	1	0	0	1	4	3
グループ〈アルファベット〉トップ	0	0	0	0	1	1	1
グループリーグ	4	0	3	0	0	7	2
クロス	10	18	10	15	1	54	5
クロスバー	0	1	11	0	0	12	2
クロスボール	0	0	0	1	0	1	1
ケア	0	1	1	0	0	2	2
ケース	1	2	0	0	0	3	2
ゲーム	8	3	10	10	3	34	5
ゲーム展開	1	0	0	2	1	4	3
ゲーム運び	0	0	0	1	0	1	1
ゲームプラン	1	0	2	0	0	3	2
ゲームプラン通り	0	0	1	0	0	1	1
決勝ゴール	0	0	0	1	0	1	1
決勝トーナメント	7	8	8	7	4	34	5
決勝トーナメント〈日本語読みの数〉 回戦	0	0	1	1	0	2	2
決勝トーナメント進出	0	3	1	0	0	4	2
現代サッカー	0	0	0	1	0	1	1
攻撃モード	0	0	0	1	0	1	1
好調〈英語読みの数〉トップ	0	0	0	1	0	1	1
コース	3	0	2	0	2	7	3
コーナー	0	0	0	1	5	6	2
コーナーキック	19	19	16	16	10	80	5
ゴール	10	4	5	3	14	36	5
ゴールイン	0	2	0	0	0	2	1
ゴールエリア	0	0	1	0	0	1	1
ゴールキーパー	7	4	5	9	7	32	5
ゴールキック	0	3	1	2	4	10	4

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
ゴール中央	0	0	0	1	0	1	1
コールドスプレー	1	0	0	0	0	1	1
ゴールネット	0	0	1	0	1	2	2
ゴール方向	0	2	0	0	0	2	1
ゴールポスト	1	0	0	0	0	1	1
ゴール前	0	26	5	22	2	55	4
ゴールライン	0	0	3	1	0	4	2
コミュニケーション	0	0	1	0	0	1	1
今シーズン	1	1	1	0	0	3	3
コンダクター	0	0	0	0	3	3	1
コンタクト	0	0	0	1	0	1	1
コンディション	0	2	0	0	4	6	2
コンディショニング的(な/に)	2	0	0	0	0	2	1
コントロール	0	0	0	4	0	4	1
コントロールする	0	0	0	0	1	1	1
コントロールミス	0	1	0	0	0	1	1
コンパクト(な/に)	0	3	4	0	0	7	2
コンビ	0	0	0	0	1	1	1
コンビネーション	0	0	0	4	1	5	2
コンビネーションプレー	0	0	1	0	0	1	1
コンフィギュレーションズカップ	1	0	0	0	0	1	1
最終ライン	10	1	14	4	7	36	5
サイド	13	12	24	27	12	88	5
サイドアタッカー	0	0	0	2	0	2	1
サイドチェンジ	0	0	0	2	0	2	1
サイドネット	0	0	0	1	0	1	1
サイドバック	2	6	8	3	1	20	5
サイドプレー	0	0	0	1	0	1	1
サインプレー	0	1	0	0	0	1	1
サッカー	0	1	1	1	2	5	4
サッカー王国	0	0	0	0	1	1	1
サポーター	2	6	2	1	6	17	5
サポーター選手	0	1	0	0	0	1	1
サポート	0	1	1	0	0	2	2
サポートする	0	1	0	0	0	1	1
サンバ	0	0	0	0	1	1	1

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
シーン	4	1	2	1	7	15	5
ジェスチャー	0	0	0	1	0	1	1
システム	0	3	0	0	1	4	2
システムの(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
システム変更	0	1	0	0	0	1	1
ジャブ	0	0	0	1	0	1	1
ジャンプ	0	0	0	0	2	2	1
シュート	16	45	30	15	26	132	5
シュート回転	0	0	0	0	1	1	1
シュートぎみ	0	0	0	0	1	1	1
シュートコース	0	0	2	0	0	2	1
シュートする	0	0	0	0	1	1	1
シュートチャンス	1	0	0	0	0	1	1
シュートレンジ	0	1	0	0	0	1	1
守備的ミッドフィルダー	1	0	0	0	0	1	1
省エネ	1	1	0	0	0	2	2
ジョーカー的(な/に)	0	2	0	0	0	2	1
ショートコーナー	1	0	0	0	0	1	1
ショートコーナーする	0	0	1	0	0	1	1
ショートパス	1	0	0	0	0	1	1
シンプル(な/に)	0	1	1	0	0	2	2
スコア	1	0	0	0	0	1	1
スタート	1	0	2	0	1	4	3
スタート的(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
スタイル	2	0	0	0	0	2	1
スタジアム	0	0	4	1	1	6	3
スタッフ	0	0	0	1	0	1	1
スタミナ	0	0	0	0	2	2	1
スタミナ面	0	0	0	0	1	1	1
スタメン出場	0	1	0	0	0	1	1
スタンス	0	0	1	0	0	1	1
スタンディングオベーション	0	1	0	0	0	1	1
ステートする	0	0	0	1	0	1	1
ステップワーク	0	0	0	1	0	1	1
ストッキング	0	0	0	0	1	1	1
ストップ	0	0	0	1	1	2	2

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
ストライカー	0	0	1	2	0	3	2
ストロング(な/に)	1	0	1	1	0	3	3
ストロングポイント	1	0	0	0	0	1	1
スパイク	1	0	0	0	0	1	1
スピーディー(な/に)	0	0	0	2	0	2	1
スピード	0	4	3	1	11	19	4
スピードアップ	1	0	1	0	0	2	2
スピード系	2	0	0	0	0	2	1
スプリント	0	1	0	0	0	1	1
スペース	5	6	10	3	4	28	5
スペクタブル(な/に)	0	0	0	0	1	1	1
スライディング	0	1	0	0	1	2	2
スライディングタックル	0	1	0	0	0	1	1
スリップする	0	0	1	0	0	1	1
スルーする	1	1	0	0	0	2	2
スルーパス	5	8	2	5	3	23	5
スロアー	0	0	0	0	2	2	1
スロー (な/に)	0	1	0	0	0	1	1
スローイン	2	8	1	9	4	24	5
スローダウン	0	0	0	0	1	1	1
世界ユース	0	0	0	2	0	2	1
セカンドボール	0	0	1	0	0	1	1
接触プレー	0	0	3	0	0	3	1
セットプレー	33	0	34	8	8	83	4
先制ゴール	2	0	0	0	0	2	1
センターバック	2	9	22	6	4	43	5
セントラルスタジアム	2	0	0	0	0	2	1
先発メンバー	0	0	2	0	0	2	1
ゾーン	1	2	1	1	0	5	4
ターゲット	1	1	3	1	4	10	5
ターゲット役的(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
ターンする	0	0	1	1	0	2	2
タイトル	0	0	0	0	1	1	1
ダイナミックさ	1	0	0	0	0	1	1
タイプ	1	0	0	2	0	3	2
タイミング	1	0	2	0	4	7	3

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
タイム	0	0	0	0	1	1	1
タイムアップ	1	0	1	0	0	2	2
ダイレクト(な/に)	0	0	0	1	0	1	1
タオル	1	0	0	0	0	1	1
タックル	1	0	0	0	1	2	2
タッチ	0	0	0	1	0	1	1
タッチ数	0	0	0	1	0	1	1
タッチする	0	0	0	3	0	3	1
タッチング	0	0	1	0	0	1	1
タフ(な /に)	0	1	0	0	0	1	1
ダブルボランチ	0	0	0	1	1	2	2
ダメージ	0	0	0	1	0	1	1
タレント	0	1	0	1	3	5	3
チーム	1	1	10	10	5	27	5
チームスタイル	0	0	1	0	0	1	1
チームメイト	0	0	0	0	2	2	1
遅延コール	0	1	0	0	0	1	1
チャレンジする	1	0	0	1	0	2	2
チャンス	21	12	20	22	7	82	5
チャンスボール	0	0	0	1	0	1	1
チャンピオンズリーグ	0	0	0	2	0	2	1
チャンピオンリーグ優勝	1	0	0	0	0	1	1
ティーンエイジャー	0	0	0	1	0	1	1
ディフェンス	26	32	39	55	28	180	5
ディフェンス陣	0	0	0	0	1	1	1
ディフェンスする	0	1	1	1	0	3	3
ディフェンス登録	1	0	0	0	0	1	1
ディフェンスバトル	0	1	0	0	0	1	1
ディフェンスライン	5	9	1	6	2	23	5
ディフェンダー	11	3	8	2	1	25	5
ディフェンダー登録	0	0	1	0	0	1	1
データ	0	0	0	0	1	1	1
テクニカルエリア	0	0	0	0	1	1	1
テクニク	0	1	0	1	1	3	3
テクニク力	0	1	0	0	0	1	1
同点ゴール	1	0	0	7	0	8	2

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
トーナメント	0	0	0	0	1	1	1
得点シーン	0	0	0	1	0	1	1
トップ	0	2	2	2	0	6	3
トップ下	2	1	1	1	0	5	4
トップスピード	0	0	0	0	2	2	1
トライアングル	0	1	0	0	0	1	1
トラップ	1	0	0	0	1	2	2
ドリブラー	0	0	0	0	2	2	1
ドリブル	8	2	2	4	2	18	5
ドリブルシュート	0	0	0	0	1	1	1
ドリブル突破	0	0	0	1	0	1	1
トレーニング	1	0	0	0	0	1	1
ナイスセーブ	0	0	1	0	0	1	1
何シーン	0	0	0	0	1	1	1
ナンバー(英語読みの数)	0	0	1	0	0	1	1
ニアサイド	12	0	10	0	0	22	2
ニュアンス	0	0	0	0	1	1	1
ノーファール	3	0	4	0	1	8	3
ノーマーク	0	0	0	0	2	2	1
ノックアウト方式	0	0	0	0	1	1	1
ハードワークする	0	0	1	1	0	2	2
ハーフウェイライン	0	0	0	1	0	1	1
ハーフタイム	3	1	3	3	0	10	4
バイタルエリア	1	0	0	1	0	2	2
ハイボール	0	2	0	0	0	2	1
バウンドする	0	0	2	0	0	2	1
パス	5	12	5	2	4	28	5
パスベース	0	0	1	0	0	1	1
パスまわし	0	0	1	1	0	2	2
パスミス	0	1	0	1	0	2	2
パスワーク	1	0	0	0	0	1	1
バックスタンド側	0	0	0	0	1	1	1
バックパス	0	0	4	0	1	5	2
バックライン	2	8	3	0	1	14	4
ハットトリック	0	0	0	0	1	1	1
パフォーマンス	3	1	1	1	0	6	4

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
バランス	0	2	1	3	0	6	3
バランス力	0	1	0	0	0	1	1
パワープレーぎみ	0	0	0	1	0	1	1
パンチ	0	0	0	0	1	1	1
パンチ力	0	0	0	0	1	1	1
ハンド	0	4	5	1	2	12	4
ピーケー	0	0	1	0	0	1	1
ピーケー戦	1	0	0	0	1	2	2
ヒール	0	0	0	0	1	1	1
左サイド	9	4	8	9	6	36	5
左サイドバック	4	12	14	2	1	33	5
ピックアップする	1	0	0	0	0	1	1
ビッグチャンス	0	2	0	2	0	4	2
ピッチ	5	1	5	3	0	14	4
ヒット	0	1	0	0	0	1	1
ヒットする	1	0	2	0	0	3	2
ピンチ	3	4	4	0	0	11	3
ピンポイント	0	2	0	0	0	2	1
ファー	0	0	0	0	1	1	1
ファーサイド	2	0	2	0	1	5	3
ファーストタッチ	1	0	0	0	0	1	1
ファーポスト	0	0	0	0	1	1	1
ファール	19	28	22	28	40	137	5
ファインセーブ	1	0	1	0	1	3	3
ファインプレー	0	0	0	0	1	1	1
フィールド	1	0	1	0	0	2	2
フィールドアップ	4	0	0	0	1	5	2
フィールドプレーヤー	1	0	0	0	0	1	1
フィニッシュ	4	0	5	0	0	9	2
プーイング	0	2	0	1	1	4	3
フェイント	1	0	0	0	5	6	2
フォーメーション	1	0	1	0	0	2	2
フォローする	0	0	0	0	4	4	1
フォワード	2	17	12	6	11	48	5
フォワード登録	0	0	0	0	1	1	1
プラス	0	0	1	0	0	1	1

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
フラッグ	2	0	0	1	3	6	3
フラット(な/に)	0	0	2	0	0	2	1
ブラン	0	1	2	0	0	3	2
フリー	10	2	7	1	2	22	5
フリーキック	5	37	10	28	7	87	5
フリック	0	0	0	1	0	1	1
フル出場	0	1	0	0	0	1	1
プレー	10	17	13	7	20	67	5
プレーオン	2	0	2	0	0	4	2
プレー機会	0	1	0	0	0	1	1
プレー再開	0	0	0	1	0	1	1
プレースタイル	1	0	0	0	0	1	1
プレーする	1	17	6	1	2	27	5
プレーメーカー	0	0	0	0	1	1	1
プレーヤー	0	0	0	0	1	1	1
プレス	0	0	1	0	0	1	1
プレスボール	0	0	0	1	0	1	1
プレッシャー	3	17	15	5	0	40	4
フレッシュ (な/に)	0	0	0	1	0	1	1
プレッシング	0	0	0	5	0	5	1
プレッシングベース	0	0	0	1	0	1	1
プレミア	0	1	0	0	0	1	1
プレミアリーグ	0	4	0	0	2	6	2
ブロック	0	1	0	0	1	2	2
ベース	0	0	1	0	0	1	1
バスト<英語読みの数>	7	1	2	0	1	11	4
バスト<英語読みの数>入り	0	0	0	0	1	1	1
ヘディング	2	4	1	1	0	8	4
ヘディングシュート	0	0	5	12	1	18	3
ベテラン	0	0	1	1	5	7	3
ベテラン同士	0	0	0	0	1	1	1
ペナルティアーク	0	0	0	0	1	1	1
ペナルティエリア	0	2	3	8	3	16	4
ペナルティキック	0	0	1	0	0	1	1
ペナルティキック戦	0	0	0	1	0	1	1
ペナルティスポット	1	0	1	0	0	2	2

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
ベンチ	1	1	3	6	5	16	5
ベンチスタート	0	1	0	0	2	3	2
ホイッスル	2	0	2	0	3	7	3
ポイント	1	0	0	1	0	2	2
ボーカー	0	1	0	0	0	1	1
ボール	51	44	47	51	40	233	5
ボールキープ	1	0	2	0	0	3	2
ボールキープ率	0	0	2	2	0	4	2
ボールキック	0	0	1	0	0	1	1
ボール支配率	0	0	0	0	1	1	1
ボールタッチ	1	0	0	1	0	2	2
ボールつなぎ	0	0	0	1	0	1	1
ボールヘディング	1	0	0	0	0	1	1
ボール保持者	0	0	0	1	0	1	1
ボールまわし	1	1	0	2	0	4	3
ボクシング	0	0	0	1	0	1	1
ポジションニング	4	1	0	0	0	5	2
ポジション	9	2	18	10	11	50	5
ポジション取り	0	1	0	0	0	1	1
ポスト	0	0	0	0	1	1	1
ポストプレー	3	0	2	0	1	6	3
ホットライン	2	0	0	1	1	4	3
ボランチ	10	0	20	6	3	39	5
ボランチ的(な/に)	0	0	1	0	0	1	1
ボレー	1	2	0	0	0	3	2
ボレーシュート	0	0	0	1	0	1	1
マーカー役	1	0	0	0	0	1	1
マーク	8	3	1	3	4	19	5
マークする	2	1	2	2	0	7	4
マッサージ	1	0	0	0	0	1	1
マンツーマン	0	0	0	1	0	1	1
マンツーマン	3	0	0	1	0	4	2
マンツーマン的(な/に)	0	1	0	0	0	1	1
マンマーク	4	1	0	0	0	5	2
マンマークぎみ	1	0	0	0	0	1	1
右サイド	9	11	18	12	10	60	5

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6. 25	②6. 26	③6. 27	④6. 30	⑤7. 2	合 計	出 現 試合数
右サイドバック	4	26	6	0	0	36	3
ミス	3	7	1	1	0	12	4
ミスキック	0	1	0	0	0	1	1
ミスキックぎみ	0	1	0	0	0	1	1
ミスパス	0	0	0	1	0	1	1
ミッドフィルダー	0	1	3	1	0	5	3
ミドルシュート	3	0	11	3	6	23	4
ミドルレンジ	0	0	0	1	0	1	1
メインスタンド側	1	0	0	0	0	1	1
メリット	0	0	0	1	0	1	1
メンタリティ	0	0	0	2	0	2	1
メンバー	1	1	6	1	4	13	5
メンバー入り	0	1	0	0	0	1	1
メンバーがえ	1	0	0	0	0	1	1
メンバー交替	0	0	1	0	1	2	2
メンバーチェンジ	3	0	1	0	1	5	3
優勝メンバー	1	0	0	0	0	1	1
ユース連盟	0	0	0	1	0	1	1
ユニフォーム	1	4	2	1	7	15	5
横パス	0	0	1	3	0	4	2
好セーブ	1	0	0	0	0	1	1
好ディフェンス	0	0	1	0	0	1	1
ライン	10	3	8	5	16	42	5
ラインディフェンス	1	0	0	0	0	1	1
ラストパス	2	0	0	1	0	3	2
リーグ	1	0	0	0	0	1	1
リーグ優勝	1	0	0	0	0	1	1
リード	0	3	0	3	13	19	3
リードする	0	1	0	0	0	1	1
リクエストする	0	1	0	0	0	1	1
リスク	1	1	0	0	0	2	2
リスクマネジメント	0	0	0	1	0	1	1
リスタート	0	2	1	4	2	9	4
リズム	3	2	0	5	23	33	4
リズム感	0	0	0	1	0	1	1
リターン	1	0	1	0	0	2	2

調査対象となった全試合の総語彙リスト	①6.25	②6.26	③6.27	④6.30	⑤7.2	合 計	出 現 試合数
リベンジ	0	0	0	0	3	3	1
両エース	0	0	1	0	0	1	1
両サイド	1	1	0	2	1	5	4
両サイドバック	0	0	0	1	0	1	1
両チーム	8	9	21	18	21	77	5
ルーズ	1	0	0	0	0	1	1
ルーツ	0	0	0	1	0	1	1
ループ	0	1	0	0	0	1	1
ループぎみ	0	0	1	0	0	1	1
レギュラー	0	0	1	0	0	1	1
レギュラーメンバー	0	0	0	0	1	1	1
レシーブ	0	0	0	1	0	1	1
レッド	0	0	0	0	2	2	1
レッドカード	0	0	0	1	0	1	1
レフティ	0	0	0	1	2	3	2
レフリー	3	1	3	5	4	16	5
レフリング	0	0	0	1	0	1	1
連続ゴール	1	0	0	0	0	1	1
ロス	0	0	0	0	1	1	1
ロスタイム	8	9	8	10	12	47	5
ロングシュート	0	0	1	0	0	1	1
ロングスロー	0	2	2	0	2	6	3
ロングボール	0	22	1	0	0	23	2
ワールドカップ	1	5	1	1	14	22	5
ワールドカップ(国名)大会	1	0	1	0	0	2	2
ワールドカップスタジアム	0	0	2	0	5	7	2
ワールドユース	1	0	0	0	0	1	1
ワイド(な/に)	1	0	0	0	0	1	1
ワンクッション	0	0	0	1	0	1	1
ワンチャンス	0	0	0	0	1	1	1
ワンツー	0	0	1	1	0	2	2
ワンツーする	1	0	0	0	0	1	1
ワンプレー	0	0	0	0	1	1	1
合 計	703	813	880	790	732	3,918	×